



ゴキウゴキウと ガラフクタの城

しろ

たなか慶の黒絵本シリーズ(ちよいこワ)
文・絵 たなか慶

ばんえん
けい

登場キャラクター



「三はあざん」

「三はあざんはもつてくへられた怪獣、自分の体を道員を作りたり、山で勝手に農作物を盗んだりして、生計を立てている。元々、大きな器業者の娘だから、名門空太を卒業しているもの。ウツサがあるが、強がなことはわからない。織り時代の陰謀少女に力をえられ、「三三」を作ることになる。



「三三」

「三はあざんはもつてくへられた怪獣、自分の体を道員や材料を作ることができるとは、だが、そのあとは、骨だけになって、気絶してしまふ。」



すま犬コロ

「三はあざんが、まちで拾ってき猫犬。しかし、ばあさんがほしかったのは、コロが入っていた箱だけだった。頭脳明晰で、「三三」が作ったものか何の役に立つのか素早く判断する。「三はあざん」とは会話ができる。



「三三」

「三はあざんがへつべした、「三三」のきょうだつ。」

暴走族グループ 悪神音 (マクシオン)

昭和時代特有の凶悪犯罪悪走族。暴行、傷害、恐喝、窃盗、等々、やっけない犯罪は殺ぐらの凶悪ぶり、町中の人々から恐れられている。「三はあざん」たちと決する。



リーダー 白骨独郎 (しらほねとくろう)

市東 白骨独門の次男。頭は切れるが、金持ちの息子で、何不自由なくワカママに育てられたことから、上から目線でものを言われると、かんしゃくをおこし、無鉄砲に相手を攻撃する。多くの犯罪を犯してきたが、その悪事は、全て父親によつてもみ消されてきた。



メンバー 門紀伊 文達 (もんきいもんけん)

市内の解体業経営者のせがれ。グループの中でも一番の暴れん坊。人を殴るのが楽しくてたまらない。いつも、誰かを殴る口実を探しながら生活している危険な男。猿のような鳴き声で意思を伝える。



メンバー 井治 ワルミ (いじわるとみ)

市内の中古バイク販売店経営者の娘。女番長。後輩へのいじめ方が強手。後輩達から奪い取った金品は百万円を超える。白骨独郎に好意を持っているが、独郎は金つとしか考えていない。

登場キャラクター



市長 白骨独門（しらほねどくもん）
ひかりくらの市長。暴走族のリーダー。白骨独門の父。元々は学芸員の経営者。権力者の息子の裏口入学を成功させてから、実力をつけ始め、市長にのしあがる。性格は、非常にケチで、短気。



哀愁じいさん
ゴミばあさんが作った家具や道具を買ひ取ってくれる雑貨屋の店主。ゴミばあさんたちの良き理解者だが、偏屈で、気に入った番でなければ品物を売らないので、なかなか売れず、店からは品物がいづもはみ出している。



古い師 コスシ
暴走して早になり着いたというのサもあるが、案のこよ素性は不詳。彼女も織文時代の幽霊の夢をみて、不慮な力を手に入れた。



赤目のシンイチ
暴走族にじめられていた少年。ゴミーたちが暴走族と闘っているのをよくゴミーたちに仲間入りを志願する。くらやみ団地に住んでいて夜間の激しい両腕の電撃のため眠れず、赤い目になってしまった。



スマトリリーチェ
古い師コスシが工場で作った生物。人間の生み物とよばれている。ペレニコ、ソッザ、イヌリチエンカという仲間がいる。コスシを「おおかさん」と呼ぶ。



ジユラン
織文時代から、ひかりくらのやみにすんでいる幽霊。特定の人物に夢の中で、特殊な能力を与え、まちを破壊するよう命令する。

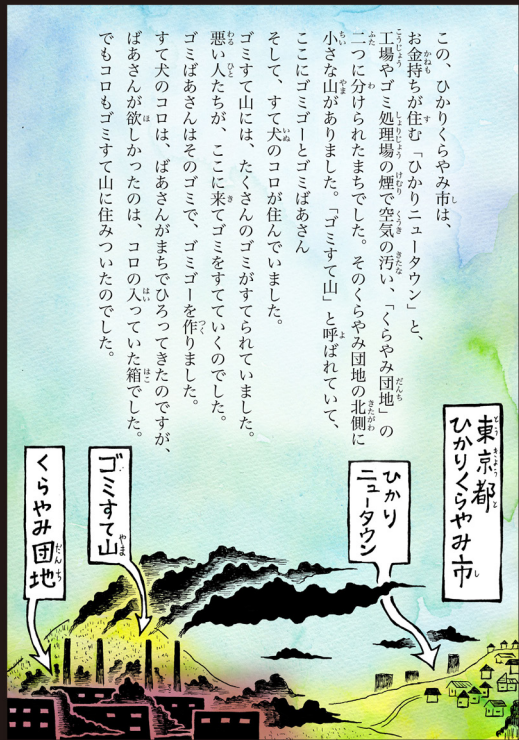
たなか慶の黒絵本シリーズ(ちよいこワ)

ゴミバナーと ガラクラタの城

ばん ぶん
しん 絵
たなか 慶

むかし、むかし……、と言っても、
それほどむかしのお話ではありません。
昭和という時代、東京都のはずれに、
「ひかりくらのやみ市」というまちがありました。





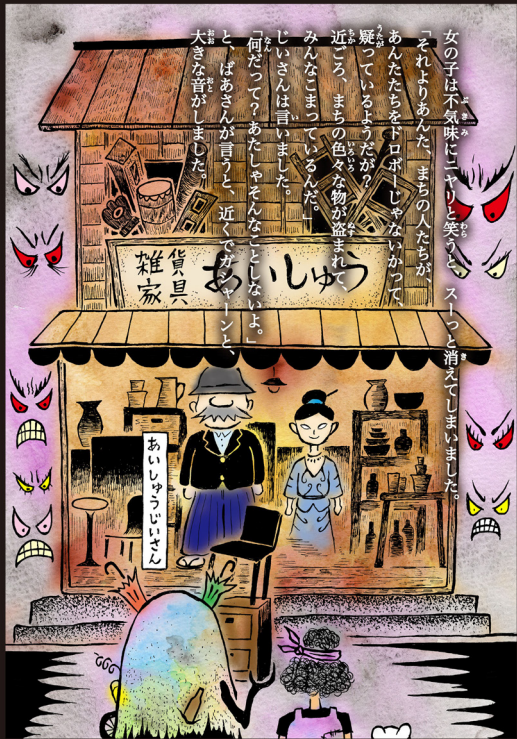
この、ひかりくらやみ市は、お金持ちが住む「ひかりニュータウン」と、工場やゴミ処理場の煙で空気の汚い、「くらやみ団地」の二つに分けられたまちでした。そのくらやみ団地の北側に小さな山がありました。「ゴミすて山」と呼ばれていて、ここにゴミゴーとゴミばあさんそして、すて犬のコロが住んでいました。ゴミすて山には、たくさんのゴミがすてられていました。悪い人たちが、ここに来てゴミをすてていくのです。ゴミばあさんはそのゴミで、ゴミゴーを作りました。すて犬のコロは、ばあさんがまちでひろってきたのですが、ばあさんが欲しかったのは、コロの入っていた箱でした。でもコロもゴミすて山に住みついたのです。

東京都
ひかりくらやみ市

ひかり
ニュータウン

ゴミすて山

くらやみ団地



ためしよみ

は

ここまでです